

# 人間開発教育課程 21 世紀ビジョン

平成19年2月

八洲学園大学生涯学習学部

人間開発教育課程

## 目指すべき将来像

オンリーワンの生涯学習支援者・社会有用人材育成課程として、  
優れた人材を輩出する

インターネット大学・ライブ配信のパイオニアとして、  
大学eラーニングの新しい道を開く

ヒューマンeラーニングによる  
教育の充実

新たな生涯学習支援者の養成  
社会的変化に対応出来る有用な人材の育成

リフレッシュ、継続教育の機会の提供  
自己実現の希望を生かせる学習プログラムの提供

八洲学園大学  
生涯学習学部

人間開発教育課程21世紀ビジョン

## 将来の人間開発教育課程 — 予想される姿

公開講座  
八洲学園大学  
「短期カレッジ」  
科目修得認証科目  
民間資格科目  
継続教育科目

他大学との学科間  
連携

つねに社会のニーズに応えるカリキュラムの提供  
24時間 随時授業の実施  
自宅からの授業配信

柔構造の  
人間開発教育課程

企業との連携  
コーポレート・ユニバーシティ(CU)の基礎部分の提供

商工会議所、自治体等と連携  
中小企業、SOHO、起業家等への知識・技術の提供

在校生・卒業生のヒューマンeラーニング・ネットワーク全国展開

八洲学園大学  
生涯学習学部

人間開発教育課程

八洲学園大学生涯学習学部  
人間開発教育課程 21 世紀ビジョン

はじめに

平成 16 年 4 月に創設された八洲学園大学は平成 19 年度で開学 4 年目を迎え、完成年度に当たる。平成 18 年には、生涯学習学部として平成 20 年以降のカリキュラムの検討を開始することになり、人間開発教育課程でも、開学以来の経験をもとにカリキュラム改革案の作成に着手した。そのような作業には、当然のことながら、今後の在り方が関わり、人間開発教育課程の将来を展望するビジョンを必要とする。

そのため、平成 18 年秋から、人間開発教育課程会議で人間開発教育課程 21 世紀ビジョンの検討を開始した。具体的には、10～11 月にフリー・ディスカッションを行い、12 月から平成 19 年 2 月前半にかけて骨子案についての議論を重ね、2 月中旬から後半にビジョン案をまとめ、確定した。

このような経緯からも明らかなように、これは、人間開発教育課程が教育・研究・社会貢献にわたって発展を図るために、みずからのよりどころとして構築したものであり、あくまで人間開発教育課程のビジョンという域を出るものではない。しかし、社会的機関としての社会的責任もあることを考え、ここに公表することとした。

平成 19 年 2 月

八洲学園大学生涯学習学部  
人間開発教育課程

課 程 長・教授	山本恒夫
図 書 館 長・教授	高鷲忠美
教 授	浅井経子
教 授	沼倉佑栄
教 授	山本 格
専任講師	秋吉正博
専任講師	石田 尊
専任講師	篠崎明子
専任講師	田井優子
専任講師	塙 武郎

## 目 次

(頁)

I	我が国初のインターネット・ライブ配信による生涯学習学部の創設 .....	1
	1. 大学草創期のインターネット・ライブ配信授業 — 安定化の成功	
	2. 人間開発教育課程の目的とミッション	
II	人間開発教育課程の現状と課題 .....	2
	省略	
III	人間開発教育課程の目指すべき将来像 .....	2
	1. 目指すべき将来像	
	2. 予想される人間開発教育課程の姿	
	おわりに — 今後に向けて .....	4
資料	人間開発教育課程中期計画と単年度計画の策定について .....	4
	省略	

## I 我が国初のインターネット・ライブ配信による生涯学習学部の創設

### 1. 大学草創期のインターネット・ライブ配信授業 — 安定化の成功

本学は平成16年4月に開学した我が国初のインターネット・ライブ配信による大学で、スクーリングのみならず、テキスト履修もレポート提出・添削、試験等はすべてインターネットで行う新たな大学である。開学当初はインターネット特有の配信トラブルが多かった。しかし、システム改善やネットワークの診断・改善、教員有志が自らのスクーリング授業のトラブルを調査・集計して検討するなどの努力により、平成17年秋にはトラブルが解消し、インターネット・ライブ配信授業の安定化に成功した。

オンデマンドの授業配信はすでに行われていたが、大学の授業をすべてインターネット・ライブ配信するのはまだ無理であるといわれていただけに、この安定化の持つ意義は大きい。

### 2. 人間開発教育課程の目的とミッション

人間開発教育課程は生涯学習学部の1課程であるが、課程独自の教育目的とミッションを持っている。

#### (1) 教育の目的

##### ① これからの時代の新しい生涯学習サポーターを養成する。

21世紀はいろいろな知識を活用して新たな創造を行う知識基盤社会になるといわれている。そこでは生涯学習が重要な役割を果たすが、本課程では、地域・生涯学習関連施設・企業などで、自らが成長するとともに生涯学習をサポートする人を養成する。

具体的には、国家資格、科目修得認証を生かして、

- ・地域で学習支援のデザイン・運営、学習相談のできる人、
- ・図書館、博物館で専門性を生かして働くことのできる人、
- ・企業などで能力開発を支援する人、
- ・地域づくり、起業、再チャレンジを実践、支援する人、

を養成する。

##### ② 広く社会人にリフレッシュ、継続教育の機会を提供する。

流動化がますます激しくなるといわれるこれからの社会にあって、次のような人々に再チャレンジ、リフレッシュ、継続教育の機会を提供する。

- ・起業や再チャレンジ、再就職を考えている人、社会人基礎力などの自己のキャリア・アップ、スキル・アップを目指している人、知識や教養を高め自己実現を目指している人、これからの生き方を模索している人。
- ・社会教育主事、司書、学芸員、各種生涯学習支援者で、自己向上を目指してリフレッシュをしたい人。

#### (2) ミッション

我が国の大学の中で、人間開発教育課程のような大学教育を行うところは他にないため、本課程には、これからの遠隔大学教育や生涯学習社会の実現、発展に貢献すべき社会的ミッションがある。

- ① インターネット大学・ライブ配信のパイオニアとして大学eラーニングの新しい道を拓く。

大学eラーニングでは、大学教育における人間的な交流の欠如が問題にされているが、「ヒューマンeラーニング」を推進し、新しい道を拓く。

「ヒューマンeラーニング」は、学生間の交流希望者が「ヒューマン・プラットフォーム」にきて、それぞれのパソコンで授業を受けた後に、お互いに情報交換をする学習形態・方法である。

- ② 再チャレンジに必要な生涯学習支援の専門家を養成する。

生涯学習支援の研究・人材養成を行う我が国唯一の課程として、今後の我が国で必要とされる「再チャレンジ」を支援する専門家を養成する。

- ③ 社会のさまざまな人たちが、自己実現のために抱いている多様な希望・要望を生かすことのできるプログラムを開発し、提供する。

## II 人間開発教育課程の現状と課題

省略

## III 人間開発教育課程の目指すべき将来像

### 1. 目指すべき将来像

他に類を見ない我が国オンリーワンの生涯学習支援者養成・有用人材育成課程として、新たな教育の構図を描き、優れた人材を輩出する。

世の中のニーズに対応するダイナミックなカリキュラムにより、社会の要求にあった人材を養成する。

#### (1) 新たな生涯学習支援者の養成

- i 生涯学習関係の国家資格取得（社会教育主事、司書、学芸員）科目の充実を図り、優れた専門職を養成する。
- ii これらの資格に関係のある単位証明をもって地域の学習支援者として活躍する人材を育成する。
- iii 科目修得認証をもって地域の学習支援者として活躍する人材を育成する。
- iv 現職の社会教育主事、司書、学芸員等のリフレッシュの機会を提供する。
- v 新たな学習コーディネーター、学習相談員、教育サポーターの養成にも対応する。

#### (2) 社会の変化に対応できる有用な人材の育成

組織や地域社会の中で仕事をする上で必要な能力、いわゆる社会人基礎力を養うことを支援する。

具体的には、

- i 基礎的能力（日本語力、文章力、論述力、読解力、問題解決・意志決定能力、企画・想像力、プレゼンテーション・コミュニケーション力など）

- ii 専門知識・スキル（基幹業務知識、環境・テクノロジー、経済学・財政学、都市経営・地域開発など）
  - iii 経営・管理能力（マネジメント、リーダーシップ、コーチング、企業倫理、人材育成の能力など）
- であり、社会の多様なニーズに応じている。
- 人間開発教育課程では、上記能力を備えた人材を養成するが、主な対象は
- ・企業人、企業での能力開発支援を行う人、
  - ・起業家、社会起業家、自ら再チャレンジ・再就職を実践する人
- 等である。

## 2. 予想される人間開発教育課程の姿

- (1) ライブ配信授業のパイオニアとして遠隔大学教育の新たな道を拓いている。
  - 1) 自宅からの授業配信。
  - 2) テレビ会議・テレビ電話による課程会議の開催。
  - 3) 24時間随時授業の実施。
  - 4) ヒューマンeラーニング・ネットワークの全国的な展開。など
- (2) 変化の激しい社会の需要に応えられる良質・柔構造の課程となっている。
  - 1) 人材派遣会社、商工会議所、公共職業安定所などの需要を受けた科目の開設。
  - 2) 社会の需要をうけた公開講座「短期カレッジ」の開設。
  - 3) 1学期に1回の試験を学期全体に分散させた「試験時間割」を作成して、試験を受け易くし、履修の便を図っている。
  - 4) 時代にあった特別講義などにより、つねに魅力あるカリキュラムを提供している。
  - 5) 学生が生涯にわたって自主的に研究を続けられる「人間開発研究」を開設している。など
- (3) 高水準の教育・研究体制を安定的に維持している。
  - 1) 研究eブックの継続的刊行。
  - 2) 卒業生インストラクターの新設など
- (4) 他大学との学科間連携、短期大学・専門学校との連携を広げている。
  - 1) 登録生涯学習検定制度（新）の活用による連携など
- (5) 企業との連携を図っている。
  - 1) 大企業に対して、コーポレートユニバーシティ（CU）の基礎部分を提供している。
  - 2) 中小企業、SOHO、起業家等に対し、商工会議所、自治体等と連携して必要な知識・技術の向上を図っている。

おわりに ― 今後に向けて

これはあくまでビジョンであり、平成 19 年度には、ここにあげた問題・課題・将来像の中から、緊急度や重要度を考慮した優先順位を付けて、平成 20 年度以降の中期計画と年度計画を策定しなければならない。その方法については、参考までに資料を付してある。

また、時代の変化は激しいから、このビジョンを折に触れて見直し、それによって計画も手直しをしていかなければならないであろう。人間開発教育課程の発展は、まさにそのような不断の努力にかかっている。

資料 人間開発教育課程中期計画と単年度計画の策定について

省略